

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 6 5 回 相模原市社会福祉審議会児童福祉専門分科会				
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 1 5 (直通)				
開催日時		令和 6 年 3 月 1 9 日 (金) 午後 6 時から 7 時 4 0 分まで				
開催場所		けやき会館 2 階 大研修室				
出席者	委員	8 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	8 人 (こども家庭支援担当部長ほか 7 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 議 題 次期さがみはら子ども応援プラン(母子保健分野)策定に向けた施策体系(案)について 3 その他(情報提供) (仮称)子育て応援条例について 4 閉 会				

1 開会

中安会長の挨拶の後、次第に沿って進行された。

3 その他（情報提供）（仮称）子育て応援条例について

議事進行の都合上、情報提供を先に行った。事務局からの説明後、各委員からの意見、質疑応答は次のとおり。

（内田委員）他の自治体でも同様の条例を作っているところはあるのか。

（事務局）先行している自治体はある。子どもの権利条例と合わせて作成しているところもある。

（内田委員）相模原市は初めてやることでも積極的にチャレンジする市であると思っている。ぜひその意気込みで進めていただきたい。

（笹野委員）こども家庭庁ができて、異次元の少子化対策ということも言われている。国の動向も注視しながら進めていただきたい。理念条例ということで、拙速に進めるとうまくいかなくなる恐れもある。

2 議題

次期さがみはら子ども応援プラン（母子保健分野）策定に向けた施策体系（案）について

次期さがみはら子ども応援プラン（母子保健分野）の法的位置付けや検討スケジュールについて、事務局から説明した。計画の基本理念や施策体系の検討にあたり、ブレインストーミングを行うことについて了承された。

（笹野委員）さがみはら子ども応援プランとの整合性を考えると、自分は母子保健の専門性が高くないため、母子保健に特化した意見ではないかもしれないが、了承いただきたい。

（事務局）具体的な施策の検討では母子保健分野のみ議論いただくが、本日は母子保健に限らず、子どもの施策全体として大切にすることは何かを発言してもらえばよい。子ども・子育て会議でも同様のことを行い、それぞれ融合したものを基本理念に据えつつ、具体的な施策と紐づけていくことを考えている。

（事務局）ブレインストーミングでは基本理念を検討するうえで、各委員が思っていることや大事にしていることを言葉にしてもらいたい。網羅性が高くなくとも、事務局で整理して計画の中に反映するのでよい。

以下のテーマに沿って、グループごとにブレインストーミングを行った。

【テーマ1】「ここがダメだよ。母子保健」

例：子育て世代の孤立、必要な人への支援不足 など

【テーマ2】「母子保健で大切にしたいこと」

例：次代の親の育成、地域全体で子育てする仕組みづくり など

(事務局)いただいた意見については基本理念だけでなく、施策体系の基本目標などでキーワードや考え方として使わせていただく。課題として出た意見を裏返ししたものが、皆さんが求めているものだと思う。いただいた意見を事務局で整理し、計画の中に反映していく。最終的には網羅性が高い内容になるよう検討する。

3 その他(委員からの意見)

(品川委員)どんどん子どもの数が減っていて、令和2年には1,500~2,000人減少したと聞いているが、その後はどうなっているのか。子どもの減少に伴い、保育園のあり方は変わってくると思う。0歳児がどの保育園も4月から定員割れと聞いている。お母さんたちが家庭で子どもを育てられるようになったということで、良いことだと思うが、保育士の配置が少なくなったり、潰れてしまう園もあるのではないかと。70~80人定員で園庭がない場所が認可されていて、近くの公園が取り合いになっている状況を市としてどう考えていくのか。1人当たりの保育数を減らして質の高い保育をしてもらいたい。人口の推移にあわせた保育のあり方を検討していただきたい。

(事務局)市としても子どもが減少する中で保育園をどうしていくか、さがみはら子ども応援プランにも反映させていかななくてはいけないと考えている。

(内田委員)先日、中学校を卒業した当時の園児に会ったが、見違えるほど「いい子」になっており、子どもの力は凄いと感じた。周囲が温かく見守り理解し関わることで、子どもは成長することを実感した。改めて乳幼児期の関わりは大切だと思った。

(中安会長)保育士を志す学生が減少する中で、人材や質の確保など、保育士をどう養成するかは課題である。学童保育においても様々なニーズや課題があると思う。今後も広い視点でも議論できるとよい。

(品川委員)「いい子」「わるい子」は大人目線の判断。子どもが表出したことを自分たち大人が応援できればいい。大人目線で話をしてしまうが、子ども目線に立つことも大切だと考えさせられた。

4 閉会

事務局より、次回は5月頃に開催することを伝え、閉会した。

市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 委員出欠簿

番号	氏名	役職・推薦団体	出欠
1	おおぬき 大貫 きみお 君夫	相模原市民生委員児童委員協議会	出席
2	ささの 笹野 あきお 章央	相模原市社会福祉協議会	出席
3	うちだ 内田 のりこ 紀子	相模原市私立保育園・認定こども園園長会	出席
4	まゆづみ 黛 ゆうじ 祐治	相模原市幼稚園・認定こども園協会	出席
5	たがわ 田川 つくよ 継世	相模原市ひとり親家庭福祉協議会	出席
6	よこぼり 横堀 まさこ 昌子	青山学院大学教授	欠席
7	たけした 竹下 まさゆき 昌之	相模女子大学専務理事	出席
8	なかやす 中安 こうた 恆太	和泉短期大学准教授	出席
9	たかはし 高橋 まみ 真美	相模原市立小中学校長会（南大野小）	欠席
10	あいざわ 相澤 ゆみ 由美	相模原人権擁護委員協議会	欠席
11	しながわ 品川 よういち 洋一	相模原市医師会	出席
12	たじま 田島 としき 敏樹	相模原市医師会	欠席